

ディプロマ・ポリシー		カリキュラム・ポリシー	アドミッション・ポリシー
<p>本学科では、本学の定める修業年限以上在学し、共通教育科目・基礎教育科目および専門教育科目を所定の履修方法に従って124単位以上を修得し、次のような能力・資質を備えた者に対し、教授会の意見を聴いて、学長が卒業を認定します。卒業が認定された者には、学士（生活環境学）の学位を授与します。</p>		<p>本学科ではディプロマ・ポリシーを達成するために、次のような学ぶ分野について、多様な方向からアプローチしていくとの方針に基づき、カリキュラムを編成します。</p> <p>私たちを取り巻くモノや状況である生活環境は、最も身体に近い衣服から、生活用品、インテリア、住居・建築物、街・都市へと広がっています。これらを対象に、1年次では、暮らしの中のモノ・空間・事柄と人との関係について広い視野で学んだのち、2年次から「生活デザインコース」、「アパレルコース」、「建築デザインコース」の3コースに分かれてより専門的に取り組みます。</p> <p>学ぶ内容は、文系・理系・造形系に広く及びます。座学だけではなく、演習・実習・実験という主体的な学修方法を通して、ディプロマ・ポリシーを達成します。学んだ集大成としての卒業研究に結実できたかどうかで、その達成度を評価します。</p> <p>「生活デザインコース」 生活に関する「調査」と「デザイン」をキーワードに、暮らしの文化を幅広く考えることを通して、生活の中の課題を発見し分析する力を身につけることができます。また、プロダクト、パッケージ、インテリアの3分野で魅力的なアイデアを形とともに提案する力を身につけることができます。</p> <p>「アパレルコース」 アパレルに関して、感性と専門知識に裏付けされた豊富な商品知識を生かして活躍ができるよう、アパレルに関する知識や技能、デザイン力を身に付け、企画・造形面の素養を深めるとともに、服飾素材の品質や特性・加工など、衣服の機能性を高める知識も学びます。</p> <p>「建築デザインコース」 いかに暮らすかの視点から、生活空間である住宅や公共施設から街、都市までの様々な空間と、それを支える仕組みについて、多角的な視点から学びます。その内容は、インテリアにおけるモノの配置や内装、建物の計画、構造、設備などの生活空間を維持する仕組み、街の計画や街づくりにも及びます。</p>	<p>本学科は「立学の精神」とそれに基づく「教育目標」に賛同し、かつ卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）および教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）に定める教育を受けるために必要な次に掲げる知識や技能、意欲を備えた女性を求めます。</p> <p>1. 知識・理解 ①入学前には、国語、英語、数学、世界史、日本史、化学、生物といった科目を幅広く履修し、基礎知識を備えている人 ②入学後は、生活環境に関して、文化的、社会的、科学的、工学的、造形的な観点からの基礎的・専門的な知識を修得しようとする人</p> <p>2. 技能・表現 生活環境を構成する事象に対し、定量的、論理的、創造的なアプローチから学ぼうとする人</p> <p>3. 思考・判断 新たな課題に対し、論理的に考え、問題を解決しようとする人</p> <p>4. 態度・志向性 社会性を有し、他者と協調・協働して社会の発展に貢献する態度や、生涯にわたり自立して学び続けるための意欲や向上心を身につけようとする人</p>
1. 知識・理解	1-1	生活環境に関わる事象に対して、文化的、社会的な観点からの専門的知識を有している。	
	1-2	快適で健全な生活環境に形作るための、科学的・工学的な観点からの専門知識を有している。	
	1-3	生活環境を豊かにするモノに対して、造形的な観点からの素養を身に付けている。	
2. 技能・表現	2-1	生活環境を構成する事象を定量的・論理的に分析し、問題の解決につなげるのできる技能を有している。	
	2-2	生活環境を構成する事象に対し、創造的なアプローチをし、表現する技能を有している。	
3. 思考・判断	3-1	新たな課題に対し、論理的に考え、問題を解決する能力を身に付けている。	
	3-2	新たな課題に対して、創造的能力と表現力を身に付けている。	
4. 態度・志向性	4-1	社会性を有し、他者と協調・協働して社会の発展に貢献する態度を身に付けている。	
	4-2	生涯にわたり、自立して学び続けるための意欲と向上心を身に付けている。	